

重点施策		特別支援教育の推進		評価実施者		所 属	教育支援課
				職・氏名		課長 吉川 修	

重点施策の概要	目 的	障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組みを支援するとともに、学校生活や学習上の困難を改善し克服するため、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した、適切な指導を実施します。					
	今年度の主要事業	①個に応じた支援の充実 ②通級指導教室の充実					

事業の目標と実績	区 分		単位	H24	H25	H26	特記事項
	1	「個別の教育支援計画」の作成を保護者から委任を受けた件数	件	34件	126件	—	
			実績	38件	52件	—	
	2	通級教室設置校	校	—	—	—	小学校3校・中学校1校に開設
			実績	3校	3校	4校	
	3	特別支援学級に「教育支援員」の配置	人	—	—	—	情緒学級・肢体不自由学級に配置することを原則
			実績	4人	5人	7人	
	4						
			実績				
	5						
		実績					
6							
		実績					
7							
		実績					

事業の分析 効果の検証	①障がいのある子等の支援として「教育支援員」を配置して、安定した学校生活を送ることの支援に成果があった。 26年度⇒教育支援員7名配置 ②通級指導教室の充実・・・ことばやコミュニケーションに課題のある児童生徒の特別な教育を行う教室として、市内4校に拠点として開設し、自立支援の充実を図った。 (26. 5. 1現在における通級者 第二小16名・第三小32名・西小9名・明苑中16名 計 73名) ③通級教室について、道内の都市部の中でも、10校中4校の開設は、設置率が高く保護者や子どものニーズに合わせた支援に努めている。
課題	①通級指導教室の充実・・・通級設置校に通う児童生徒の負担軽減から、設置条件(通級人数等)満たせば新規の開設を推進する。

評価	A 評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学校生活の支援や通常学級との交流学习など、子どもの教育的ニーズの応えることが出来た。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか
----	---

【評価の区分】

A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
 B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
 C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
 D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	個別の支援のいっそうの充実を図り、事業を推進したい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	特になし
---------------	------